



大潟小だより

上越市立大潟町小学校

E-mail ohgata-e@jorne.or.jp

令和4年2月



「滑っても 行き先違う 板まかせ」

2月3日（木）、6年スキー教室の感想の中に、キラリと光る句がありました。6年生の約3分の2はスキーが初めてで、思いどおりに進んでくれないけれど、そのスリルまでも楽しんでいた光景が浮かんできました。

午前中、初めての子供たちは、片足にスキーを履いて歩くことから始め、ゲレンデ末端のゆるい斜面を登っては転び、滑っては転んで…の繰り返し。午前終了時にはヘトヘトで、もう帰りたいと言い出す子もいました。

それでも午後は、いきなりリフトへ。上から滑りながら少しずつスキー操作を身に付けさせようという作戦です。そしたら、さっきまで転んでばかりいた子供たちが、午前中の猛特訓の成果で、次々に滑り降りていくことができました。時には、行き先が「板まかせ」になって派手に転んでも、みんな笑顔でした。思うようにスキーをコントロールできなくても、友達と一緒に広いゲレンデを滑り降りる爽快感を味わうと、「楽しい」「またやりたい」と思うのがスキーの魅力です。

以前、当校では、スキー授業を行ってなく、平成27年度に始めて今に至っています。県外で新潟県出身と言うと、スキーが上手だと思われれます。これも一種の偏見かもしれませんが、人によって興味関心も違います。しかし、我がふるさととは、雪が降りスキーが身近な環境にあることは確かです。今回のスキー教室のインストラクターには60歳代の方が何人もおられたように、スキーは幅広い年齢で楽しめる生涯スポーツです。この体験をきっかけに、一人でも多くの子供たちがウィンタースポーツに関心をもってくれることを期待しています。



ジムリーナで体操（全学年）



3年生（1月21日）



4年生（1月26日）

1月21日の3年生の利用を最初に、学年ごとに上越体操場ジムリーナ（九戸浜）へ行き、専用器具を使って、専門のコーチから指導を受けました。

学校でも学習するマット運動や跳び箱のほかに、つり輪にぶら下がったり、平均台やトランポリンを経験したり、体をいっばいに動かして楽しんでいました。

2年生は、胸に日の丸の付いたジャージを着た選手と出会いました。昨秋の世界選手権床運動の銀メダリストがここで合宿していたのです。日本代表選手を目の前に、子供たちは大興奮でした。



1年生（1月28日）



2年生（2月4日、日本代表選手と）

幸せな学校を目指して 児童会活動

「幸せな学校」を目指す子供たちの主体的な活動が広がっています。計画しているとき、活動中、やり遂げたとき、それぞれで成長していきます。

- 5年6送会実行委員会 6年生を送る会成功を目指して計画し、準備が本格化。
- 総務委員会 「Jチームで思い出を作ろう」
- 図書委員会 「おすすめの本アンケート」
- 生活委員会 「あいさつマップ」
- JRC委員会 「シトラスリボンプロジェクト」



シトラスリボン